

大郷町の「道の駅おおさと」に農産物を出荷する生産者団体「産直友の会」では、会長の高橋秀行さんが毎月の定例会で野菜の栽培講習会を開催。会員の意欲向上を図っている。

令和元年4月から会長となった高橋さんは、会員が定例会に出席しないことを懸念していた。「道の駅の職員から販売実績や売り場の状況が報告されるが、出席率が低く情報共有が不十分だった」と話す。

(株)渡辺採取場の研究農場に勤めていた経験を活かして、会長就任と同時期から、定例会の終了後に栽培講習会を始めた。10月の講習会では、ニンニク定植とタマネギ播種の適期、ハクサイ管理の注意点について解説した。高橋さんは「除草剤テデトール（草むしり）は無料で効果抜群だが、体の負担が大きいので注意」と説明し、場を和ます。参加者は「歩留まりが上がる指導をしてくれるのでありがたい。冗談も交えてくれるので最後まで集中できる」と好評だ。

高橋さんは今後について「栽培講習だけではなく、過去には農業会議と農業委員会を招いて農業者年金を紹介してもらった。関係機関の情報提供もお待ちしております」と語る。

【記事執筆】 宮城県農業会議

10月の講習会の様子



高橋秀行さん

